

12月16日（火）大津清陵高等学校馬場分校を訪問しました！

対談 テーマ

学校における働き方改革
～多様な学びを支えるために～

第4回の対談では大津清陵高等学校馬場分校を訪問しました。様々な生徒たちの「学び」を確保するために、先生方がどのような工夫をされ、どのような課題を感じておられるのか、そして持続可能で働きやすい環境を実現するために必要なことは何かについて、意見交換を行いました。

訪問した教育委員

土井 真一 委員 塚本 晃弘 委員
野村 早苗 委員 窪田 知子 委員

校内見学



校内見学では、生徒が使用している教室や図書室の他、給食が提供される給食室も見学させていただきました。ここでは毎日のように生徒同士の交流が行われるだけでなく、先生と生徒が交流する姿も見られる等、皆さんにとって大切な憩いの場になっているそうです。

意見交換より

- 委員：生徒たちの背景が多岐にわたっている中で、教員の皆さんの雰囲気はどのようなもののでしょうか。また、その雰囲気を生み出しているものは何だと思われますか。
- 学校：教員のおおらかさがないと成り立たない学校だと思います。今の時代に逆行している部分はあるかもしれませんが、教員の多くはその方向が良いと感じているようです。
- 学校：どの教員も「生徒のために何かしたい」と強く思っていますが、それぞれベクトルが異なると感じることもあり、そこは課題だと思っています。
- 委員：外国籍の生徒がたくさん在籍する中で、どのようにICTを活用しておられますか。
- 学校：通訳ソフトなどを活用してコミュニケーションをとる場面もあります。概ね伝わっていると考えていますが、細かいニュアンス等まで正しく伝わっているのか不安になることはあります。
- 委員：精度の高い適切な通訳ソフトを活用することは重要だと思います。学校で現状行われている、母国語を話せる学生等による補助といった取組も大切ですが、教員と生徒の確実な意思疎通を行うべき場面があると思います。生徒の将来を視野に入れて、1人1台端末の運用を考えてもらえると良いと感じました。
- 委員：大学生による言語面でのボランティアの状況について教えてください。
- 学校：ボランティアの方々には本当に助けられています。母国語で交流できた時の生徒の喜んだ表情は、とても素敵でした。大学生のボランティアは実習としてカウントされています。
- 委員：普段の授業や学校生活の様子等から、課題を感じる部分は何でしょうか。
- 学校：クラス配置を配慮するにあたって、他校に比べてクラス数が少ないため難しさを感じます。施設面の制約もありクラス数は変え難いため、教員の人数が増えることで、きめ細かく対応できると良いなと思います。
- 学校：教員1名で10数名の生徒に授業するのが難しい実情があります。しかし更に少人数のクラスにすれば良いという訳ではなく、例えば生徒の英語力など優れた部分を互いに発揮させて切磋琢磨させることも大切だと思っています。その意味では、10数名の生徒に対して教師4名ぐらいが丁度良いと考えています。
- 委員：お話を伺って、一定の規模の生徒集団を複数の教員で見守ることの必要性が伝わってきました。今後の県立学校の規模や教員の配置等は、教育委員会全体でしっかり考える必要があるところだと思います。